

シルクロードが繋いだ中央ユーラシアと日本

講師：村上 智見（北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 特任助教）



シルクロードの終着点と言われる我が国には、法隆寺や正倉院などに様々な異国風の文物が伝わっている。これらの宝物がもたらされた時代、中国の唐王朝では西域の文化が大いに流行し、日本にも少なからぬ影響を与えた。これらの西域文化を東に運んだ主な担い手は中央アジアのソグド人であったが、彼らは8世紀初頭から徐々に弱体化し、歴史の表舞台から消えてしまった。ソグド人とはどのような人々だったのか。日本に伝わる西域風の文物は一体どこから来たのか。その謎を探るため、報告者が中央ユーラシアで実施している最新の研究成果を交えて報告する。

表 題：シルクロードが繋いだ中央ユーラシアと日本

日 時：2023年8月19日（土）14時～16時

会 場：北海学園大学 豊平キャンパス7号館（6階）行動科学実験室、オンライン

参 加 費：500円

講 演：村上 智見

北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 特任助教

申 込 み：会場に直接来ていただくか、以下のQRコードよりからオンライン参加の申込み

お問合せ：日本ユーラシア協会札幌支部 明嵐真（めいあらし まこと）

Email: baishiruyi@yahoo.co.jp

